

栃木県立宇都宮白楊高等学校 農業経営科

農業経営科では、生徒の主体性や創造性を育むため、地域の農家・行政・企業との連携やデュアルシステム制度を取り入れた課題研究に取り組み、専門教育の充実を図っています。

進学先は、国公立大学の農学部、私立大学等の4年制大学、農業大学校、専門学校などと多岐に渡っています。また、就職先は、JAや製造業、サービス業などです。

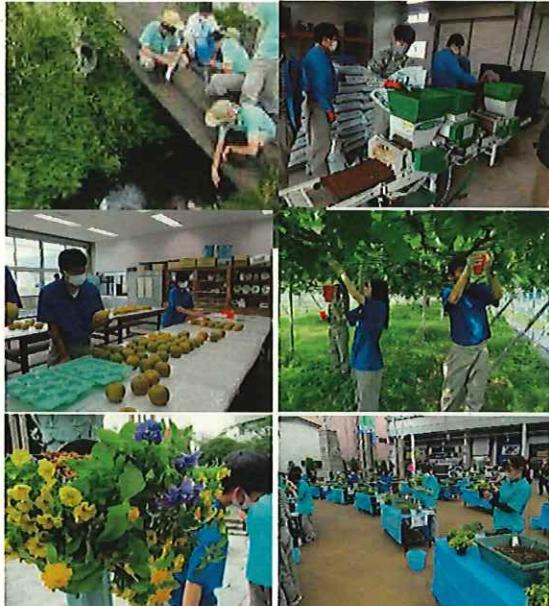
特徴的な活動

栽培・飼育、農業経営に関する知識と技術により進路実現を目指す

2017年（平成29年）12月26日、JGAP認証をトマトで取得し、その後、ナシとブドウ、玄米、ネギの5品目のJGAP認証を取得し活動を継続しています。

農産物の安全・安心を証明するGAP認証の取得は、これから新しい農業の流れであると同時に、消費者からの信頼を維持するための必要条件となってきていることから、多くの場面で活動を紹介していきたいと思います。また、2022年度に「いちご一会とちぎ国体」が開催されることから、その緑化活動の準備として数種類の草花の試験栽培を行ったり、宇都宮市と連携した市内の緑化ボランティアに参加し、ハンギングバスケットの設置やプランターへの花苗の定植を行い、地域の方々との交流を深めています。

今後も、地域の活性化につながる活動を継続して行くこととします。



農業学習や農村文化の保存活動を通して地域貢献できる生徒の育成を目指す

毒物劇物取扱者、農業技術検定2級、危険物取扱者などの資格取得を目指し、専門教育の充実を図っています。また、地元で生産されたユリやバラを活用した花育活動や、ロボットトラクタ、ラジコン草刈り機の実演によるICTの学習、牛のOPU（超音波診断装置を用いた卵子採取）の実施による最新の繁殖技術の学習、酒米栽培を通した地域酒蔵との連携、地元の貴重な農作物（エゾシマモチや新里ねぎ）を後世に継承する活動、鳥獣管理士を招いた野生鳥獣による農作物被害とその対策講座など、地域が抱える課題解決にも広く取り組んでいます。



栃木県立宇都宮白楊高等学校 生物工学科

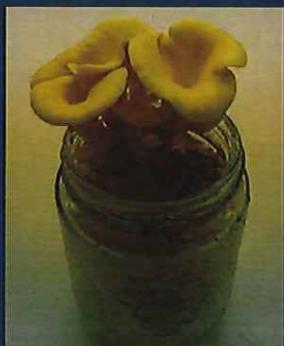
バイオテクノロジーを学ぼう！

生物工学科では、植物バイオテクノロジー・動物バイオテクノロジーや微生物の利用などについて学習しています。

バイオテクノロジーは、私たちの生活の身近なところで役に立っている技術です。

学習内容

- 植物分野・・・鉢花の栽培、ラン類の組織培養
絶滅危惧種培養・栄養繁殖系植物の組織培養
- 動物分野・・・マウス・ハムスター・ウサギ・イモリの飼養生態実験
- 微生物分野・・・キノコの栽培、細菌類大腸菌などの培養・無菌操作



バイオ技術者認定試験（初級）全員合格！
合格者の1名が成績優秀者に選出されました！

バイオ技術者認定試験（初級）とは、「基礎生物学」「基礎化学」「遺伝・育種」「食品・微生物」「植物」「バイオ実験技術」の6つの分野について、基本的な知識と実験技術を習得していることが認定される試験です。



今年度は、3年生39名が受験し、全員が合格し、そのうちの1名が成績優秀者として表彰されました。成績優秀者は、合格者1,777名のうち、11名のみが選出されています。



栃木県立宇都宮白楊高等学校 食品科学科

幅広い視点から「食品」を学ぶことができる！
食品科学科では、食品の製造、食品成分の働きや基礎実験、微生物の利用、流通に関して学び、普段の食生活や食品業界でも活かせる知識と技術を学習しています。



「食育の推進活動と交流教育」

本校食品科学科は、「宮っこ食育応援団」に登録し、近隣の小学校、特別支援学校、地域コミュニティなどにおいて、食育についての出前授業を行っています。

また、製造実習を通して、異校種、異年齢間の交流を深めています。



新たなレモンの産地宇都宮から「宮レモン」を活用した商品開発！ ～地域活性化と地産地消食育プロジェクト～

食品科学科食品製造分会では、地域の特産物や規格外農産物を活用した商品開発を通じた地域活性化を研究のテーマとして活動しています。今年度から、空きハウスを活用して生産された、宇都宮市の新特産品「宮レモン」を利用したパン・菓子などの商品開発を通して、地域を盛り上げるとともに、食育活動を展開し地産地消の大切さを伝えていきたいです。また、この活動のなかでSDGsにも取組みサステナブルな社会実現へ貢献していきたいです。

この取り組みは、「2021年度 第5回全国高校生農業アクション大賞」の認定15グループに入ることができました。2023年度までの3年間の活動が審査され、大賞、準大賞などが決定されます。



栃木県立宇都宮白楊高等学校 農業工学科

文武両道の精神で資格取得と進路実現

農業工学科では、学科の約8割の生徒が運動部に所属し毎日練習に励んでいます。また、測量土補をはじめ、2級土木施工管理技士、危険物取扱者、車両系建設機械やフォークリフトといった建設現場で即戦力となる資格やビジネス文書実務検定など、様々な資格取得にチャレンジし多くの合格者を出しています。

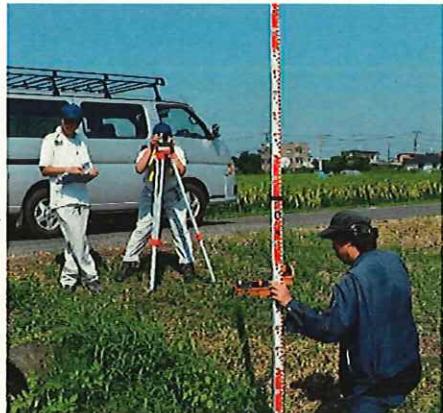
たくさんの生徒が文武両道の精神を持って学校生活を送り、宇都宮大学農学部、新潟大学農学部、東京農業大学地域環境科学部などをはじめとする4年制大学や専門学校への進学、農林水産省、宮内庁御料牧場、栃木県庁、宇都宮市役所、消防士、警察官等の公務員合格、ファナック（株）、富士重工業（株）、（株）クボタ、日産自動車（株）、花王（株）など一般企業への就職等、様々な希望進路を実現しています。

大学との協働による「田んぼダム」効果分析に取り組む！

宇都宮市においては、豪雨時に田んぼに水をためて、災害を防止する「田んぼダム」の普及を広めるため、その導入効果について調査・分析をすすめています。農業工学科の生徒が、この取り組みに協力し、新潟大学、宇都宮大学の学識経験者からのアドバイスを受けながら、測量機器を駆使して現地測量を行いました。

田んぼダムの有効性を検証し、普及につなげることができ、田んぼダムの内容や現地測量の目的を学識経験者から直接聞くことができました。

この取り組みを通して、普段授業のなかで行っていることを実践的な測量や農業の治水効果を学ぶ貴重な経験となり、私たちの学習が、社会に役立てられることの喜びを実感できました。



植樹造林整備活動で森林再生に取り組む！

宇都宮市役所や宇都宮市森林組合、グリーントラウトうつのみやの皆様に御協力をいただき、キャリア形成支援事業の一環として、鶴田沼緑地において、樹林地の再生についての学習と林業体験を実施し、生徒全員がチエーンソーによる丸太切りを体験させていただきました。

樹木の伐倒と枝下や高所における特殊伐採の実演では、森林組合の方の熟練された技術の凄さに参加者全員が圧倒されました。今回の授業は、樹林地再生や林業の重要性を理解する上で、大変貴重な機会となりました。



地域との連携で人づくり！

農業工学科では、学校で学んだ知識や技術を基に、生徒一人一人が地域での各種活動に積極的に参加しています。その中で主体的に活動することで、様々な経験をし、幅広い年代の方々とのコミュニケーションを通して大きく成長しています。

そして、「卒業後は地方公務員として、地域に貢献できる仕事がしたい。」と考える生徒が増え、毎年公務員試験合格者を輩出しています。これからも、地域の担い手やリーダーとなり得る人材の育成に向けて、地域の皆様とともに諸活動に取り組んで行きたいと考えています。

目指せ！測量士補試験

全員合格！

学科の大きな目標として「測量士補全員合格」を掲げ、日々学習に励んでいます。結果、毎年多くの生徒が試験に合格しています。

【年度別合格者数】

平成 29年度	14人
平成 30年度	27人
令和 元年度	23人
令和 2年度	11人
令和 3年度	9人

